

令和4年度 第2次募集 選抜・評価方法

学校番号 93

千葉県立匝瑳高等学校 全日制の課程 普通科

1 選抜資料

(1) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(2) 面接	受検者5名・評価者3名の集団面接 検査時間：1グループ15分
(3) 作文	字数：480字以上600字以内 検査時間：50分

2 評価項目及び評価基準

(1) 調査書〔185点満点〕

アの数値に、エについて加点（上限50点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K=1$ を乗じた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3年間の欠席が合計30日を超える場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が1つもない場合は、審議の対象とする。
特別活動の記録、 エ 部活動の記録及び 特記事項	生徒会活動、部活動、学校内外における活動で、特に積極的に取り組んだと認められる記述については加点する。 また実用英語技能検定及び日本漢字能力検定で準2級以上を取得している場合は加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判断する際の参考とする。

(2) 面接〔36点満点〕

3名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを3点、bを2点、cを1点とし、3名の評価者の評価（各12点満点）を合計し、得点化する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機	志望の動機が明確である。
イ 高校生活への意欲	高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活（学習・部活動等）に意欲的に取り組もうとしている。
ウ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、分かりやすく適切に回答することができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に回答することができる。 将来の進路希望等について、具体的に回答することができる。
エ 面接に臨む態度	服装・頭髪等身だしなみが整えられている。 基本的な面接作法が身についている。

(3) 作文〔45点満点〕

3名の評価者が、それぞれ次の3つの評価項目ごとに各評価基準に基づき、アについては、a（指定通り）・b（指定以外）の2段階、イについては、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階、ウについては、a（優れている）・b（標準的である）の2段階で評価する。3名の評価者ごとに、各評価項目の評価の組合せに基づき、15点満点で得点化する。

評価項目	評価基準
ア 字数	指定された字数に対して過不足がない。
イ 内容・文章表現	問題のテーマを正しく理解し、自分の考えを明確に述べている。 正しい言葉使いや、正しい漢字が使用されている。
ウ 全体構成	全体としてのまとまりがある。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

「調査書の得点」、「面接の得点」及び「作文の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、第2次募集の募集人員までを入学許可候補者とする。

調査書の得点		面接の得点	作文の得点	総得点
評定（K=1）	加点			
135点	50点	36点	45点	266点

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。
イ 入学許可候補者とした者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による入学許可候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

4 その他

過年度卒業者については、作文終了後、別途個人面談を行う。

令和4年度 第2次募集 選抜・評価方法

学校番号 93

千葉県立匝瑳高等学校 全日制の課程 理数科

1 選抜資料

(1) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(2) 面接	受検者5名・評価者3名の集団面接 検査時間：1グループ15分
(3) 作文	字数：480字以上600字以内 検査時間：50分

2 評価項目及び評価基準

(1) 調査書〔185点満点〕

アの数値に、エについて加点（上限50点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K=1$ を乗じた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3年間の欠席が合計30日を超える場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が1つもない場合は、審議の対象とする。
特別活動の記録、 エ 部活動の記録及び 特記事項	生徒会活動、部活動、学校内外における活動で、特に積極的に取り組んだと認められる記述については加点する。 また実用英語技能検定及び日本漢字能力検定で準2級以上を取得している場合は加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判断する際の参考とする。

(2) 面接〔36点満点〕

3名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを3点、bを2点、cを1点とし、3名の評価者の評価（各12点満点）を合計し、得点化する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機	志望の動機が明確である。
イ 高校生活への意欲	高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活（学習・部活動等）に意欲的に取り組もうとしている。
ウ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、分かりやすく適切に回答することができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に回答することができる。 将来の進路希望等について、具体的に回答することができる。
エ 面接に臨む態度	服装・頭髪等身だしなみが整えられている。 基本的な面接作法が身につけている。

(3) 作文〔45点満点〕

3名の評価者が、それぞれ次の3つの評価項目ごとに各評価基準に基づき、アについては、a（指定通り）・b（指定以外）の2段階、イについては、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階、ウについては、a（優れている）・b（標準的である）の2段階で評価する。3名の評価者ごとに、各評価項目の評価の組合せに基づき、15点満点で得点化する。

評価項目	評価基準
ア 字数	指定された字数に対して過不足がない。
イ 内容・文章表現	問題のテーマを正しく理解し、自分の考えを明確に述べている。 正しい言葉使いや、正しい漢字が使用されている。
ウ 全体構成	全体としてのまとまりがある。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

「調査書の得点」、「面接の得点」及び「作文の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、第2次募集の募集人員までを入学許可候補者とする。

調査書の得点		面接の得点	作文の得点	総得点
評定（K=1）	加点			
135点	50点	36点	45点	266点

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。
イ 入学許可候補者とした者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による入学許可候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

4 その他

過年度卒業者については、作文終了後、別途個人面談を行う。